

加古川専売所通信 12月号

神戸新聞NEXTのピックアップ 当店スタッフがこれぞ神戸新聞ならでは!と思ったおもしろ記事やオススメ連載記事、また繰り返し読んでほしい地域の情報などをご紹介。詳しく内容を知りたいと思うニュースは是非その日の神戸新聞の紙面、または電子版神戸新聞・神戸新聞NEXTをお読みください!



11月5日(木)記事より

小5の自然学校 相次ぎ縮小

新型コロナウイルスによって多くの学校行事に影響を受ける中、兵庫県独自の行事で、小学5年生を対象にした4泊5日の野外活動「自然学校」も、自治体ごとに例年とは違う形での模索が続く。【中略】

10月中旬、加古川市若宮小学校の体育館。集まった同校の全5年生50人が3人一組となり、県立南但馬自然学校(朝来市)の職員に教わりながら、慣れない手つきでテントを張った。同校の自然学校は例年、八チ高原(養父市)で4泊5日過ごすのが定番だが、本年度は宿泊なしに、テント張りのほかにも地元の高御位山に登ったり、運動場でピザ作り挑戦したりした。ピザの生地をナイロン袋に入れてこねるなど、コロナ対策も徹底。キャンプファイアの代わりに、体育館で懐中電灯の明かりを囲む「キャンドルファイヤー」も楽しんだ。【後略】



11月11日(水)記事より

盆踊りで健康的な生活を

夏の風物詩として親しまれる盆踊りを通じ、認知症予防や体力づくりを目指す市民グループ「きんもくせいの会」が、加古川市野口町の坂元の坂元・野口土地地区画整理記念館を拠点に発足した。

毎月第1、第3月曜の午後1~3時、同会館で教室を開く。年齢や性別、住んでいる地域は問わず、誰でも参加可能。



高砂銀座商店街「朝ごはん市」再開!

高砂銀座商店街で朝食を販売し、住民らが交流する「朝ごはん市」が、21日午前8~11時に9カ月ぶりに開かれる。2014年7月から11月の恒例イベントとなっていたが、新型コロナウイルス感染拡大で今年3月以降は開催が見送られていた。今回は飲食スペースは設けず、持ち帰り商品のみの販売になるが、町内の飲食店など15店舗前後が出店する。

商店街東側入口の受付にて検温と消毒を実施。県のスマートフォン向けアプリ、「新型コロナ追跡システム」への登録も呼び掛けています。ぜひご協力を。

12月開催は19日(土)8~11時。手作り雑貨やアクセサリーが並ぶ。「ふるしきマーケット」も同時開催!



11月8日(日)記事より

赤穂特産ミカン 念願の初収穫

昨年11月、赤穂市大津に移住し、新規就農した小川敬生さん(神戸市北区出身)と柳原昇輝さん(加古川市出身)が、赤穂特産ミカンを初収穫した。赤穂市塩屋で畑を借り、シカよけの網を張り巡らせるなど地道な作業を続けてきた。黄色く、たわわに実ったミカンを見て「やっと収穫できるのがうれしい」と喜ぶ。別々の高校で農業を学んだ後、県立農業大学校(加西市)で果樹栽培を専攻した同級生。かんきつ類の栽培を相談した赤穂市で「忠臣蔵みかん」の登録商標を持つ浮田みかん園を紹介された。後継者のいなかった浮田康男さんから研修を受け、20~30年たった約600本の木が植わる畑約1畝を借りて丹精を続けた。【中略】浮田さんは「初めてで段取りが分からない中、暑い夏にも諦めずによく頑張った」と感心。1月中旬まで収穫を続け、2人のミカンも「忠臣蔵みかん」として販売ルートに乗せる。「3年間は様子を見るが、後を託している」と期待する。

小川さん「夏は高いほど、収穫量が高い。コロナ禍で、果物はより多くの消費者で健康にいい。」



シトラスリボンプロジェクト 感染者にリボンで共感

11月20日(金)記事より

新型コロナウイルス感染者が増える中、感染者や医療関係者への差別・偏見をなくすことを目指す「シトラスリボンプロジェクト」取り組みが、加古川市をはじめ兵庫県内でも広がっている。感染からの回復後に「ただいま、おかえりって言いあえるまちに」を合言葉に、愛媛県の市民グループが始めた活動。兵庫県内の学校や企業なども、共感を示す三つ輪が重なる黄緑色のリボンを付けたり、イラストを掲げたりしている。

同プロジェクトは松山大(松山市)准教授の甲斐朋香さんら6人のグループ「ちょびっと19+(プラス)」が4月、愛媛県内で感染者が出たことをきっかけに始め、全国に広がった。シンボルとなるリボンの三つの輪は、「地域」「家庭」「職場・学校」を示す。

発案の甲斐さん プロジェクトの今後を。

「確やかに、無理のない範囲で、それぞれのやり方で多くの人が取り組んでくれればうれしい。コロナであらわになったのは、生きづらい人にとわ寄せがいく一面が、社会にあるということ。収束しても、ただ感染が広がる前に戻るのではなく、コロナが被害者や居場所を壊している人たちに目を向けるきっかけになってほしい。多様な立場の人に、少しでも優しい社会になればいいと思う」



シトラスリボンを手に、金沢市立小中学校の6年生と立川口立小中学校の6年生

松陽校生が松右衛門帆でマスクカバーを手作り

11月21日(土)記事より

高砂市曾根町の松陽高校の女子生徒たちが、地元ゆかりの帆布「松右衛門帆」でマスクを衛生的に包み込むカバー約300枚を手作りし、併せて作った布製マスク100枚とともに近くの伊保南小学校の児童に贈った。

松陽高校の3年生が取り組む課題の研究の一環として、生活文化科の7人が9月上旬から作り始めた。週3回の授業で、布の裁断からアイロン掛けまで、役割を分担して取り組んだ。マスクの左側には市のマスコット「ぼっくりん」をあしらった。マスクカバーは、コロナ禍でも前向きに過ごしてもらおうと、明るいオレンジ色や水色をベースにした生地を使用。カバーは全児童に、マスクは5、6年生に配られる。同科の3年生の玉田景音さんは「マスクカバーを使ってもらいコロナに負けず、健康に過ごしてほしい」。6年生の佐藤未来さんは、「お姉さんたちが優しく、カバーもおしゃれ。マスクも大切に使う」と話していた。



鮮やかに染まる木々

11月21日(土)記事より

加古川市の中部にある平荘湖。外周4.8%の湖に沿って木々が華やか。最も目を引いたのは、市立少年自然の家前の湖畔広場に立つイチョウの大木だった。高さ約15m。黄色に染まった葉が落ち始めており、自転車愛好家がスマートフォンのカメラを向けていた。湖の西側へ進むと、中国産の落葉高木、ナンキンハゼの赤い葉が逆光で浮かび上がっていた。枝の先に付く白い種と深紅の葉との対比が、鮮やかだった。



スタッフより情報。お暮しの家にあるサツマイモがなんかゴイ!らしい。という事で、突然お部屋に写真集を持って頂きました。ご報告です。たつぷのつぶやき @kakogawaenbaisho - 1時間 - Kさまのお家にて。育てた野菜や果物を届けてくれたり、普段から気にかけてくれる方から、いつもとちょっと様子の違うお届け物が...!

あまりにも立派なので一緒に頂いた柿と玄米に飾ってますよ!との事でした。嬉しいからというよりも、その方のこだわりや心意気、嬉しい気持ち、嬉しい気持ちで届けてくださるのだからです。愛媛県の山で採れたよもぎも届きました。

